授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
音楽療法各論Ⅳ（総合Ⅰ）		**4**	**音**	**1**	**宍戸幽香里、伊藤啓子**

Ⅰ　主題

音楽療法対象者を取り巻く環境、障害種類や障害レベルについての基礎知識を学び、音楽療法の方法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.障害者を取り巻く環境ンついて理解する。
2.障害者の種類や障害レベルを理解する。
3.

Ⅲ　授業の概要

DVD や様々な具体例を通して、障害者を取り巻く環境や障害の種類、レベル等を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	障害についての考え方	障害者を取り巻く環境
2.	知的・発達障害について	乳幼児
3.	知的・発達障害について	学齢児
4.	知的・発達障害者について	成人期
5.	重症心身障害児・者について	乳幼児～成人まで
6.	高齢者の疾病について	パーキンソン症について
7.	高齢者の疾病について	認知症の種類
8.	高齢者の音楽療法	介護予防について
9.	精神科領域について	集団歌唱の意義
10.	その他障害全般について	染色体異常、未熟児等
11.	観察方法	DVD による観察を通して
12.	観察方法	DVD による観察を通して
13.	観察方法	DVD による観察を通して
14.	観察方法	DVD による観察を通して
15～30.	ロールプレイ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料配布

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(実技)
配点比率(%)　合計 100	60			20	20
障害別理解と観察	○			○	
観察方法ワーク					○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

図書、深部うやニュースなどから、障害者やその家族など全般についての知識を得ること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

課題は締切期日を遵守すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
音楽科教育研究		**4**	**音**	**1**	**北山敦康**

Ⅰ　主題

この授業は、中学校教諭一種「音楽」免許の必修科目である。ここでは、以下のような到達目標を設定している。

Ⅱ　授業の到達目標

1.本科で学んだ「音楽科教育法」の知識・経験をさらに発展させる。
2.中学校の音楽科授業における実践的指導力を高める。
3.今日的な教育課題に対応した授業デザインや教材開発の能力を向上させる。

Ⅲ　授業の概要

授業の前半期は講義を中心にして音楽教育の現状把握や各自の問題意識の再構築を行い、後半期においては模擬授業とディスカッションを通して授業実践力と授業研究能力の向上を図る。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　オリエンテーション	本授業の概要と計画について
2～4.　音楽教育の歴史	学習指導要領の変遷と目的観
5～7.　音楽教育の方法	多感覚教育とその方法
8～9.　音楽教育の目的	音楽教育の課題と展望
10～11.教材分析（1）	歌唱、器楽
12～15.教材分析（2）	鑑賞、創作
16.　まとめ	前半期の総括
17～20.教材研究の方法	実践例に学ぶ教材研究
21～25.学習計画の立案	指導案の作成と手順
26～27.模擬授業（1）	実践と検討
28～29.模擬授業（2）	実践と検討
30.　まとめ	後半期および全体の総括

Ⅴ　使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説・音楽編　　文部科学省　　教育芸術社　　2008

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他
配点比率(%)　合計 100	30	20	20	30	
授業実践力と授業研究能力の向上	○	○		○	
模擬授業の実践と指導案		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業で指示した予習・復習を行い、課題についてレポートを作成すること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは特に指定しませんので、本科の音楽科教育法で使用したものと中学校学習指導要領解説・音楽編（文部科学省）を持ってきてください。必要に応じて印刷資料を配布します。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
社会福祉学特論	**2**		**音**	**1**	**加藤光良**

Ⅰ　主題

本科で学んだ社会福祉に関する知識を基に、児童福祉を中心に社会福祉の仕組みや動向を学び、これからの方向性と従事者の役割を考える。

Ⅱ　授業の到達目標

1.社会福祉の制度や仕組みを理解する。
2.戦後の社会福祉の歩みと動向を学ぶ。
3.これからの方向性と私たちの役割を考える。

Ⅲ　授業の概要

テーマごとに各自またはグループで検討・考察、発表を行い理解を深める。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1-2.　社会保障と社会福祉	27 年度予算等から社会保障と社会福祉の関係等全体像を学ぶ。
3-5.　社会福祉の仕組み	公的扶助、社会保険、社会福祉の内容と仕組みを学ぶ。
6-8.　社会福祉の歴史	福祉六法の時代から基礎構造改革を経て、現在までの動向を理解する。 措置制度から利用契約制度への転換。
9-11. 子ども子育て支援新制度の展開	新たな子供子育て支援制度の背景と課題を考える。
12-14.これからの方向性	社会福祉制度のこれからと私たちの役割を考える。
15.　まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない

Ⅵ　参考書・参考資料

本科の社会福祉の教科書等

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100	40	20	20	20	
社会福祉の仕組みや動向の理解	○	○	○	○	
授業への意欲、積極性		○	○	○	
情報、資料等の収集、分析、考察力		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

課題について各自で資料収集・分析をしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

日頃から社会福祉に関係するニュース等を収集しておくこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
臨床心理学特論		**2**	**音**	**1**	**里村澄子**

Ⅰ 主題
この授業では、臨床心理に関する知識を元に心の有り様を理解する方法を学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.臨床心理の知識を理解し、自分の心の動きが観察できるようにする。
2.関わりながら他者を理解する姿勢を体得し、そのためのコミュニケート能力を高める。
3.心理臨床で培った知見をもとに、問題を抱えた人の理解・支援に応用できるようにする。

Ⅲ 授業の概要
臨床心理に関する知識を理解するとともに、子どもの観察と同時に背後にある家庭等保育環境を構造的に捉えながら個人を支える心理援助の方法を探る。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1 臨床心理学を学ぶ意味について	「床に臨む理解」の仕方について考える
2 心理臨床の課題と研究	関与しながら観察し理解する心理臨床
3 子どもの心の理解について	傾聴とカウンセリング・マインドーA子のケースから考える
4 ロージャズの人間観	成長を支える相互尊重の姿勢と共感的理解
5 発達課題と心理臨床	発達の節目とその時期のつまずき
6 パーソナリテイー	心の発達と育児環境 ー虐待のケースをもとに考える
7 性格と心理臨床	自己覚知を性格分析から考える
8 適応について	心の働きと適応機制
9 不適応をめぐる諸問題	サインとしての問題行動を考える
10 問題行動の捉え方	治療的接近と行動変容への援助ー情緒障害児のケース
11 個人の心理相談と援助について	認知行動療法の理論と解説
12 心理相談の実際	個人面談による心の癒し
13 グループ参加につなげる心理支援	社会参加へのステップとしての試みと人的支援活用
14 家族への支援について	孤立させない家族へのサポート
15 地域で支える	連携への試みと個人情報の取り扱い方
定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等
心とかかわる臨床心理　川瀬正祐・他　ナカニシ出版　1966

Ⅵ 参考書・参考資料
カウンセリングを考える　河合隼雄　創元社

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100	60	20	5	15	
臨床心理の理論理解	○	○		○	
心理臨床に向き合う姿勢について	○	○		○	
記述に見る自他観察力	○	○			
自己理解の進展	○	○		○	
自己表現を促す作品制作			○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストを事前に読んでおくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
積極的な授業参加を旨とする。基本的にレポート提出をもって授業参加とする。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
音楽療法体験実習Ⅱ		(1)	**音**	**1**	**宍戸幽香里**

Ⅰ　主題

音楽療法全般に関する基礎知識を再確認しながら、臨床現場で他職種との連携の必要性を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.他職種の専門領域の基礎知識を理解する。
2.臨床現場での音楽療法士としての専門性を理解する。
3.音楽療法の基礎知識を応用をする方法を理解する。

Ⅲ　授業の概要

実技を伴いながら、音楽療法の基礎から応用するまでの理論を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 施設実習の事前指導	実習施設の概要
2. 施設実習の事前指導	他職種との連携

Ⅴ　使用テキスト・教材等

なし

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(実技)
配点比率(%)　合計 100				50	50
実践力				○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

実習準備を十分にする。対象者の障害についての情報収集をする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）